清流

題字：芳野 充

令和元年7月30日
第31号

発行所　加来不動産㈱
発行者　加来　寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

あたたかな太陽のような人

以前のわたしはとても短気でした。例えば、片側二車線の道路を運転していて、となり斜線の車から追い越されるとイラッとし、速度を上げて追い越しにかかる。探しモノがみつからないと、イライラしグチをこぼしながら、大げさに音を立て探しモノをする。休みの日、自分の計画どおりにことが進まなくなると不機嫌な態度をとりだす、など。

極めつけは、息子がまだ幼稚園だったころ、言うことをきかず泣きわめく姿にイライラし、怒鳴ったり手を上げていた時期がありました。しかし泣き止むどころか、よけいに泣きじゃくる息子に、さらにイライラをつのらせ、無責任にもその場をはなれ、妻に押し付けていました。

その後、冷静になってみると、自分がした行動がとても恥ずかしく、親として何とも情けなくなりました。同時にこの短気な性格を改善したい、と思うようにもなりました。

いまでは仏さまのようにおだやかな素心学塾塾長・池田繁美先生も、かつてはかなりの短気者だったそうで、数々の失敗を経験しています。その失敗を反省し、著書『素心のすすめ』のなかで、このようにつづっていらっしゃいます。

「怒ることは、悪いこと。怒ることは、未熟であることの証明。怒ることは、見苦しいこと。そう自分自身に言い聞かせました。よく考えてみますと、相手を是正したり、自分自身の思いを伝えたりするのに、何も怒る必要はありません。怒ると、人の心はますます離れていくでしょう。」

「怒ることは、未熟であることの証明―。」。当時のわたしは、この言葉が胸にささりました。また、イソップ寓話の「北風と太陽」の話も思い出されました。―旅人の上着をどちらが脱がすことができるか競争した際、北風は冷たい風をつよく吹きつけました。すると、旅人は寒さのあまり上着をギュッとつかみ離しません。しかし、太陽がぽかぽかとあたたかく照らすと、旅人はその暖かさに上着をぬいだ―、という話。

「謙虚さがなくなる兆候」の五番目には、「すぐに怒りだす（寛容さがなくなる）」とあります。自分自身の思いを伝えるのに、冷たい風をつよくふきつける北風のような人ではなく、ぽかぽかとあたたかな太陽のような人を目指したいと思います。

加来　寛